

1. 内政

- ・1日、レアンカ首相及びコルマン議会議長は、内閣・議会合同会議に出席し、議会春夏会期及び次期会期の優先議題に関し協議。会議後、レアンカ首相は、対EU関連法案に加え、政党助成金に関する法案、欧州復興開発銀行(EBRD)及び日本国政府からの融資計画に関する合意に関する法案も今会期中に採択されなければならない旨発言。
- ・2、5両日、レアンカ首相は、非常事態委員会を招集し、大雨による洪水の被害状況及び対応策に関し協議。
- ・4日、議会は、ウクライナから沿ドニエストル経由でモルドバに入国し、検問所において外国人登録を行わなかった外国人に対し罰金を科すことを目的とした法案を審議。共産党は、沿ドニエストル地域に居住するウクライナ及びロシア国民の人権を侵害するとして同法案の審議に反対し、議場の演台を一時封鎖するなど共産党と与党議員間で小競り合いが発生。5日、議会は、第一読会において同法案を採択。

2. 経済

▼EBRD関係

- ・1日、EBRDは、モルドバの主要道路の200Kmまでの修復のため、モルドバ政府に1億5,000万ユーロの融資を拡大する旨公表。この額はこれまでEBRDが行ったモルドバへの最も大きい融資額であり、道路網の改良及び早急に必要とされる道路修復のためのものであり、レアンカ首相とバレットEBRD輸送局長との間で署名。

3. 外交

▼ティモフティ大統領のストラスブルグ訪問

- ・2日、ティモフティ大統領は、ストラスブルグにおいてファン＝ロンパイ欧州理事会議長、フィーレ拡大・欧州近隣政策担当欧州委員及びヤーグラン欧州評議会事務総長等と会談し、主にモルドバの司法及び憲法改革に関し協議。

▼その他

- ・1日、EU議長国に就任したリトアニアのリンケビチュス外相は、DCFTAを含む連合協定交渉が完了したモルドバは東方パートナーシップ首脳会合におけるモルドバの目標(注:連合協定仮署名)に近づいており、リトアニアはモルドバの欧州統合路線を今後も支援する意向である旨表明。

- ・2日、レアンカ首相は、クロアチアのEU加盟を祝福する声明を発出し、EU加盟国としてのクロアチアがモルドバの欧州統合路線を支持することへの期待を表明。

- ・3日、ラザル経済相は、EUとのDCFTAの詳細は仮署名後に公表される旨発言。

4. 沿ドニエストル

▼カラーシン露外務次官の来訪

- ・4日、カルポフ国家再統合問題担当副首相は、来訪したカラーシン露外務次官と会談し、「5+2」者交渉の優先課題等に関し協議。同日、コルマン議会議長は、同次官と会談し、両国議会間関係の発展問題等に関し協議。5日、レアンカ首相は、同次官と会談し、両国政治対話、経済・社会分野における協力及び沿ドニエストル問題等に関し協議。
- ・5日、カラーシン外務次官は、ティラスポリにおいてシュタンスキ「外相」と会談し、次回「5+2」者交渉の準備状況等に関し協議。同次官は、沿ドニエストル地域には18万人のロシア国民が居住するとして、ティラスポリへの露総領事館開設を実現させる旨等発言。

▼その他

- ・2日、シュタンスキ「外相」は、EU・モルドバ間FTAへの沿ドニエストルの参加は沿ドニエストル経済にリスクをもたらす恐れがあるとして、EUが沿ドニエストルに対し特別の条件を創出することを期待する旨発言。
- ・3日、OSCE議員会議は、イスタンブールでの年次総会においてモルドバの主権及び領土一体性の原則に基づき沿ドニエストルに対して付与する特別な法的地位の確定の重要性を確認し、「5+2」者交渉の参加各国・機関に対し問題解決のための一致協力を呼びかける「沿ドニエストル紛争解決プロセスに関する決議」を採択。
- ・4日、シェフチューク「大統領」は、経済・社会問題解決の条件が整えばモルドバ新政府代表者との協議に応じる用意がある旨発言。
- ・5日、シェフチューク「大統領」は、モスクワを訪問し、ロゴジン副首相兼沿ドニエストル担当露大統領特使と会談。双方は、沿ドニエストル地域の社会・経済発展問題等に関し協議。

※本週報ではモルドバの首都名「キシニョフ」(ロシア語読み)を暫定的に「キシナウ」(モルドバ語読み)と表記しています。

(了)